



NEWS ECO



シブヤパイピング工業株式会社

TEL 052-221-6911 FAX052-201-9681

URL <http://www.shibuya-p.com>

11月に入り、朝晩は寒さを感じる日も多くなり、熱中症との戦いだった夏がうそのように過ぎやすい季節となりました。

行楽の秋に家族、友人と連れ立って、「紅葉がり」へ出かけるを計画している方も多いことでしょう。東海地方の紅葉の見ごろは気象台の予測で、愛知、岐阜は例年より「早め」、の11月下旬、静岡では「遅め」、で12月上旬でとなっています。

色鮮やかな紅葉を求め香嵐溪へ、四季桜と紅葉が同時に見られる小原村へと出かけてみてはいかがでしょうか。

シブヤの庭では、暑かった夏の名残りの「空蟬」が冬に向かって赤く色づき始めた「ピラカンサ」の枝さきにぶら下がり、夏から秋、秋から冬への季節の移ろいを見ることができます。

彩りの少ない冬の庭で、枝がしなるほど赤い実をつける「ピラカンサ」。バラ科トキワサンザシ属の総称で、日本ではトキワサンザシ、タチバナモドキ、カザンデマリなどの3種類が多く栽培されているとのこと。ピラカンサ、ピラカンサス、ピラカンサスなどの多くの呼び名があるようです。

地球温暖化が叫ばれ、各地で竜巻や洪水が発生し、「異常気象」という言葉がニュースや、日常の会話で聞かれる毎日ですが、南北に長く、ほとんどの地域が温帯の日本では、カレンダーとの間に季節のずれを感じることはあるもの、まだまだ「四季」を感じる事が出来ます。

しかし、このまま温暖化がつづけば季節感の乏しい、熱帯と亜熱帯の日本になってしまうでしょう。今、私たち個人が出来ることは些細なことかもしれませんが、それでも、一人ひとりが地球環境を考え、対峙し、「日本の四季」を未来へ残すことは私たちの責務です。



＜ISO 掲示板＞・・・＜ISO 掲示板＞・・・＜ISO 掲示板＞・・・＜ISO 掲示板＞・・・＜ISO 掲示板＞・・・＜ISO 掲示板＞・・・

【外部審査結果】

10月26日から28日までの移行審査の結果、適用規格〔ISO9001・14001：2015〕の中で改善事項は発見されず、規格の要求事項を満たし、マネジメントシステムが維持されていると判断されることから、新規格への変更が推薦されることとなりました。

・・・＜ISO 掲示板＞・・・＜ISO 掲示板＞・・・

＜総合所見＞ 2015年版移行の適切性

今回の審査では、2015年版の新たな要求事項に対する対応状況を確認し、4章、6章、8章に関する課題が多く観察されました。一方で、「リスク及び機会」への取組みでは、規格の解釈に幅を感じさせる内容でもありました。自社の業務活動に要求事項をどのように対応させるかを意識したマニュアルの見直し、経営ツールとして使用したいとの管理責任のご説明は、規格の意図を理解した取組みとして評価できました。

マニュアルを基準書として活用する観点からは、環境に関する要求事項の漏れが観察されました。見直し結果は、システム構築の大枠の部分では問題のない状況と判断できるものの、詳細な部分では課題が観察されていますが、規格の要求事項を満たしている状況と評価できました。

今後の審査等を通して、要求事項を満たすシステムに収斂されて行くと思え、改善に向けた取組みが期待されました。

＜観察された事象＞ 審査の結果グッドポイント2件、改善の機会13件の事象が観察されました。以下にその一部を紹介します。グッドポイント、改善の機会を「リスク及び機会」と捉え、より良いマネジメントシステムとするために現在のシステムを見直して行きましょう。詳細については部門長に配布した「監査報告書」で確認してください。

グッドポイント 2件

- (1) 浜松支店では、N社に向けたKYとして「リスクアセスメント及び作業指示確認書」の新様式に施工概要図を記入できる枠を設け、当日の実施事項が見える化し、実際の工事に合わせたリスクアセスメントができるように工夫していました。重要な要求事項の安全上の順守すべき安衛法徹底のための仕組みとして高く評価される内容でした。良い事例として水平展開し、全体の底上げを図っていくことを期待いたします。(抜粋)
- (2) 営業企画部では、「年間改善活動計画書」に加え、独自の「業務改善一覧」、「目標カード」を併用して目標達成のための具体的方策の情報共有や結果の見える化を図っていました。さらに、「目標カード」では、グループ内で活動の発表やそれに対するディスカッションを行うなど、モチベーションの維持や教育訓練に繋がる各種の活動が展開されていました。

目標達成のための展開方法の良さが、目指した成果に繋がった良い事例として高く評価されます。(抜粋)



改善の機会 13件 (抜粋)

- ・**環境側面** 「環境側面抽出及び著しい環境側面の判定表」による、境側面の抽出、著しい環境側面の決定を確認しました。現状は、業務活動に伴う環境影響に対して管理可能な環境側面、影響を及ぼす事ができる環境側面の抽出であり、ライフサイクルの視点からの環境側面の抽出は行われておらず、ライフサイクルの視点を含める事に検討の余地がありました。
- ・**法令・規制要求事項の特定と順守評価** 法規制等の順守状況の評価は現場ごとに行われていますが、半期あるいは通期での統括部門としての順守状況の評価は明確ではありませんでした。工程会議に於ける各現場の順守状況の把握による評価等、施工管理プロセスにおける展開の明確化に検討の余地がありました。
- ・**リスク及び機会** 施工前検討会は、予防的観点からの施工を前提とした検討は行われていない状況でした。月2回実施される現場検証についても、「施工品質計画書」作成後の活動であり、予防的活動として部門の指導が反映されているか懸念される状況でした。要求事項「箇条6」は、計画段階での「リスク及び機会への取組み」、「品質/環境目標への取組み」、「変更への取組み」が含まれますので、これらを製品プロセスの段階でどのように満たすかに検討の余地がありました。